

[大腸 Interval cancer]

理事長

藤井隆広

Takahiro FUJI

藤井隆広クリニック

Summary

Interval cancerは中間期癌とよばれ、一定の間隔でがん検診を実施しているとき、その検診間隔の間に発見される癌のことをいう。最近では、大腸内視鏡によるがん検診で発見される大腸interval cancerは、post-colonoscopy colorectal cancer (PCCRC)を使用することが適切とされている。PCCRCには、見逃し癌と急速発育癌の2つの要因が絡むとされ、見逃し癌がほとんどとする報告が多い。PCCRCは、adenoma detection rateと同様に、大腸内視鏡検査の質・精度をみるindicatorの役割を有している。当院で発見さ

れた8例のPCCRCも見逃しが主要因と考えるが、そのなかの4例は20mm以下のT1bからT2浸潤癌であり、形態もLST-NGとIIc由来を伺わせる病変であり急速発育癌の関与も否定できない。癌を見逃さない予防対策としてNBIなどの特殊光観察も有用であるが、もっとも大切なことは注意力をもった丁寧な観察を行うことにあると考えている。そのうえで、見逃しによるPCCRCではなく、明らかな急速発育癌を抽出し、それらの遺伝子解析を含めた詳細な検討から大腸癌の病態解明につなげていくこと、それが本来のPCCRCを抽出する意義と考える。

Key words

- Interval cancer
- Post-colonoscopy colorectal cancer (PCCRC)
- 見逃し癌
- 急速発育癌

はじめに

Interval cancer (IC)は、中間期癌とよばれ、一定の間隔でがん検診を実施しているとき、前の検診では陰性と判定されたにもかかわらず、次の検診が来る前に自覚症状が出現して発見される癌のことである¹⁾。最近では、大腸内視鏡によるがん検診で発見される大腸interval cancerは、post-colonoscopy colorectal cancer (PCCRC)を使用することが適切とされている。定期検診の間隔のなかでPCCRCは、便潜血テストや有症状の精密検査としての大腸内視鏡検査も含まれるため、ICとPCCRCを同義には取り扱えない。PCCRCの意義は、“見逃し癌”や“急速

発育癌”など特殊な大腸癌の抽出と、PCCRCの頻度からadenoma detection rateと同様に大腸内視鏡検査の質・精度を測るquality indicatorの役割を有している。PCCRC rateの算出方法は、未だ確立されていないが、world endoscopy organization (WEO)のexpert working partyから出された論文では発生数/1,000 person-yearが提唱されている。ICやPCCRCの言葉を正しく用いることと、PCCRC rateの算出法を統一していくことが必要である。さらには、見逃し癌の予防対策、急速発育癌という特殊な大腸癌の抽出や正しいquality indicatorの役割としてPCCRC rateは評価されるものとする。